



健康心理学事典

2019年
10月刊

日本健康心理学会 編

A5判・744頁 定価(本体 20,000円+税) ISBN978-4-621-30376-4

心身の健康増進と疾病予防に関する心理学的研究から300項目を厳選し、基礎から研究法までを見開き2ページの全13章構成でわかりやすく解説した中項目主義の読む事典。

関連図書



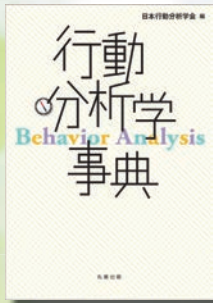
認知行動療法事典

日本認知・行動療法学会 編

A5判・832頁 定価(本体 20,000円+税)

ISBN978-4-621-30382-5

広範な治療法をもつ認知行動療法を網羅的に学び、スタンダードを知ることができる決定版の中項目事典。公認心理師主要5分野を解説。



行動分析学事典

日本行動分析学会 編

A5判・858頁 定価(本体 20,000円+税)

ISBN978-4-621-30313-9

心理学を志す学生や一般社会人も手に取りやすい見開き完結の読み切りの構成で、基礎から応用、実践までを体系的に網羅した中項目事典。



発達心理学事典

日本発達心理学会 編

A5判・712頁 定価(本体 20,000円+税)

ISBN978-4-621-08579-0

妊娠・子育てから終末期ケア・長寿研究までを周辺分野の視点を含め、「そでてる」「はたらく」など状況別の章立てで紹介。全項目2頁完結。



心理臨床学事典

日本心理臨床学会 編

A5判・774頁 定価(本体 15,000円+税)

ISBN978-4-621-08408-3

心理臨床の研究は多様化しながら新たな対応法や考察、理論を生み出し発展しており、今日の心理臨床研究の最前線が見渡せる中項目事典。



社会心理学事典

日本社会心理学会 編

A5判・706頁 定価(本体 20,000円+税)

ISBN978-4-621-08107-5

日常生活の中で起こる人の心と行動の「不思議と仕組み」について考察する社会心理学の研究最前線を解説する中項目事典。



応用心理学事典

日本応用心理学会 編

A5判・696頁 定価(本体 20,000円+税)

ISBN978-4-621-07807-5

細分化された現代心理学の諸分野の研究水準を浮き彫りにし、今後の研究活動に有効な情報を提供。様々な問題解決に役立つ中項目事典。



丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17 神田神保町ビル 6F 書籍営業部

TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270 <https://www.maruzen-publishing.co.jp>

丸善出版株式会社 行 FAX 03-3512-3270

注文書

健康心理学事典	定価(本体 20,000円+税) ISBN978-4-621-30376-4	冊
冊		
お名前		
ご住所 〒		
TEL		

取扱店

※ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間で商品手配の目的に利用させていただきます。

tkp.19.Ce

丸善創業150周年記念出版

心身の健康増進と疾病予防を知るための事典

健康心理学事典

ENCYCLOPEDIA OF HEALTH PSYCHOLOGY

日本健康心理学会 編

A5判・744頁 定価(本体 20,000円+税) ISBN978-4-621-30376-4

心身の健康増進と疾病予防に関する心理学的研究をわかりやすく解説
ワンテーマ見開き2ページ完結の全13章構成で、どこからでも興味深く読める

第一線で活躍中の専門家によって書き下ろされた
厳選重要テーマ300項目を収録

編集委員会

編集委員長	嶋田 洋徳	早稲田大学人間科学学術院 教授
編集幹事	上地 広昭	山口大学教育学部 准教授
(五十音順)	大竹 恵子	関西学院大学文学部 教授
	岸 太一	京都橋大学健康科学部 准教授
	田中 共子	岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授
	山蔦 圭輔	大妻女子大学人間関係学部 准教授
編集委員	赤松 利恵	お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系 教授
(五十音順)	飯田 敏晴	立正大学心理学部 特任講師
	井澤 修平	労働安全衛生総合研究所産業ストレス研究グループ 上席研究員
	伊藤 拓	明治学院大学心理学部 教授
	岩満 優美	北里大学大学院医療系研究科 教授
	大木 桃代	文教大学人間科学部 教授
	岡 浩一	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
	岡島 義	東京家政大学人文学部 准教授
	岡村 尚昌	久留米大学高次脳疾患研究所 講師
	岡安 孝弘	明治大学文学部 教授
	小関 俊祐	桜美林大学心理・教育学系 講師
	境 泉洋	宮崎大学教育学部 准教授
	島津 明人	慶應義塾大学総合政策学部 教授
	鈴木 伸一	早稲田大学人間科学学術院 教授
	鈴木 平	桜美林大学大学院心理学研究科 教授
	田中 芳幸	京都橋大学健康科学部 准教授
	當目 雅代	同志社女子大学看護学部 教授
	福岡 欣治	川崎医療福祉大学医療福祉学部 教授
	三浦 正江	東京家政大学人文学部 教授
	山本 哲也	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授

丸善出版

最新情報・詳細は
こちらから→
丸善出版ホームページへ



目次

ンアウト／ひきこもり・ニート / 学校適応とその対応 / 児童虐待／ハラスメントの予防と対応
コラム 医学教育と健康心理学

第8章 対人・集団・社会
【編集担当：田中共子・福岡欣治】
 自己注目・自己意識／自己開示／ソーシャルサポート／ソーシャルスキル／援助行動／援助要請行動／職場の人間関係／感情労働／社会的感情／ユーモア／友人関係／家族関係／対人ストレス／社会的排斥／スピリチュアリティ／文化と健康／異文化適応／異文化滞在者／EPA／健康の地域差(日本)／健康の地域差(世界)／医療安全／混合研究法でみる社会と健康／情報化と健康
コラム 異文化と健康——国際化時代における実践

第9章 ヘルスケアシステム
【編集担当：當日雅代・島津明人】
 緩和ケア／看護制度／感染症・疾病対策／医療費と医療保険制度／医療における各種法律／医療施設の種類と役割／医療における専門職／チーム医療／医療観察・保護観察／社会福祉制度／介護報酬と介護保険／福祉施設の種類と役割／介護における専門職／地域包括ケアシステム／プライマリヘルスケア／職場のメンタルヘルス対策／従業員援助プログラム(EAP)／過重労働対策／ストレスチェック制度／復職支援／治療と仕事の両立支援／職場のポジティブメンタルヘルス／産業保健における各種法律／産業保健における相談機関
コラム 心理学の新しい応用領域——産業保健心理学

第10章 カウンセリング
【編集担当：伊藤 拓・山高圭輔】
 カウンセリングとは／来談者中心療法／精神分析的心理療法／行動療法／理性感情行動療法(論理療法)／認知療法／認知行動療法／交流分析／対人関係療法／家族療法／プリーセザピー／催眠療法とリラクゼーション法／芸術療法／日本独自の心理療法／臨床動作法／回想法／グループケア／面接技法／予防的・開発的カウンセリング／自助グループ／運動行動、身体活動のカウンセリング／食行動のカウンセリング／アディクションとカウンセリング(喫煙行動・飲酒行動)／睡眠とカウンセリング／遺伝カウンセリング／肥満と糖尿病患者へのカウンセリング／心臓リハビリテーション患者へのカウンセリング／がん患者へのカウンセリング／ HIV/AIDS カウンセリング
コラム カウンセラーの職業倫理

第11章 健康心理学的支援法・災害後支援
【編集担当：岡島 義・三浦正江】
 児童期・青年期のストレスマネジメント／成人期のストレスマネジメント／ソーシャルスキルトレーニング(SST)／発達障害児のソーシャルスキルトレーニング(SST)／アサーショントレーニング／アンガーマネジメント／リラクゼーション法／自己教示訓練法／問題解決療法／行動活性化療法／マインドフルネスストレス低減法／ライフスタイル療法／睡眠に関する健康心理学的支援／高齢者に対する支援／子育て支援／大規模自然災害(地震・津波など)による心理的影響と支援／原子力災害による心理学的影響と支援／急性ストレス障害・PTSD／心的外傷後成長／災害時の支援／災害支援とトラウマケア／トラウマに対する心理的支援
コラム 精神症状／身体症状および習慣行動の改善、安定に寄与する睡眠の役割

第12章 性・ジェンダー
【編集担当：大竹恵子・飯田敏晴】
 月経前症候群(PMS)／月経周期／更年期障害／ジェンダーとセクシュアリティ／身体的健康における性差／性機能障害／メンタルヘルスにおける性差／性同一性障害、性別違和と／不妊と不育／性行動／性の問題に関わる援助要請／食行動と性・ジェンダー差／羞恥と健康／性感感染症／性的虐待、性暴力／セクシュアルヘルスと心理的支援、教育／妊娠・出産に伴う健康問題／産後の健康問題と育児／性に関する健康問題と社会／セクシュアルダイバーシティ／ワークライフバランス
コラム 性に関する意識と望まない妊娠

第13章 研究法・倫理
【編集担当：境 泉洋・山本哲也】
 調査研究／実験研究／観察研究／介入研究／展望研究／研究不正行為／著作権関連ルール／人を対象とする研究倫理に関する国内ルール／人を対象とする研究倫理に関する国外ルール／利益相反／教育・トレーニングの職業倫理／カウンセリングと介入の職業倫理／アセスメントの職業倫理／福祉的支援の職業倫理／司法・メディアなど社会的発信の職業倫理
コラム 標準化研究倫理教育とCITI

第1章 健康心理学の基礎
【編集担当：岩満優美・田中芳幸】
 健康心理学／健康心理士／健康／QOL／精神保健(メンタルヘルス)／健康行動／生活習慣／生涯発達／健康寿命／世界保健機関／健康日本21／健康診断／労働安全衛生／健康生成論／ポジティブ心理学／トランスセオレティカルモデル／生物-心理-社会モデル／エビデンス・ベースド・メディスン(EBM)、エビデンス・ベースド・プラクティス(EBP)／医療者-患者関係／ノーマライゼーション／コミュニティ・オーガニゼーション／行動科学／行動医学／心身医療
コラム 健康心理学への期待と今後の貢献

第2章 生理学的メカニズム
【編集担当：井澤修平・岡村尚昌】
 自律神経系活動／内分泌系活動／免疫系活動／ホメオスタシス(恒常性)／中枢神経系／遺伝子／感情・情動の生物学的基礎／認知機能(記憶)の生物学的基礎／睡眠の生物学的基礎 /メタボリックシンドローム／心身症のメカニズム／発達・加齢
コラム 風邪の症状と抑うつ症状

第3章 パーソナリティ
【編集担当：鈴木 平・大木桃代】
 パーソナリティ／パーソナリティと健康／自己概念／アイデンティティ／自己受容／防衛機制／パーソナリティ障害／レジリエンス／アレキシサイミア／児童期・青年期の発達障害／成人期の発達障害／パーソナリティのアセスメントの種類と活用／感情・情動／動機・欲求／ポジティブ感情／ネガティブ感情／フラストレーションとコンフリクト／闘病意欲／タイプC パーソナリティ／オプティズム／タイプA行動パターン／タイプD パーソナリティ
コラム 技術の革新とパーソナリティ研究の発展

第4章 ストレス
【編集担当：小関俊祐・嶋田洋徳】
 トランスアクションルモデル／ストレス反応説／ライフイベント理論(ストレス刺激説)／ストレス素因モデル／学校のストレス／職場のストレス／家庭のストレス／地域環境のストレス／ストレスコーピング／攻撃性とストレス／怒りとストレス／無気力とストレス／不安とストレス／ストレス耐性／ストレス反応／ストレスに対するソーシャルサポート／ウェルビーイング／ストレス予防／ストレス関連疾患／ストレスにおける認知的評価／認知行動療法によるストレスへの介入／ストレスに関するセルフモニタリング／ストレスに対する心理療法／ストレス免疫訓練／子どものストレス評価／青年期のストレス評価／成人のストレス評価
コラム ストレスはない方がよいのか？

第5章 健康教育・ヘルスプロモーション
【編集担当：上地広昭・赤松利恵】
 健康教育の理念、定義、変遷／健康教育の展開(進め方)／妊婦・授乳婦への健康教育／幼児期の健康教育／学童期の健康教育／思春期・青年期の健康教育／成人期の健康教育／高齢期の健康教育／身体活動(運動・スポーツ)／栄養(食行動)／喫煙行動・飲酒行動／ストレスマネジメント行動／口腔保健行動／ヘルスリテラシー／健康格差／ソーシャルキャピタル／ヘルスコミュニケーション／ICTの活用(eHealth)／健康教育のための行動経済学／ブリーチ・プロシードモデル／エコロジカルモデル／ソーシャルマーケティング・イノベーション普及理論／エンパワメント
コラム 《赤ひげ》と健康心理学

第6章 アセスメント
【編集担当：岡 浩一朗・岡安孝弘】
 アセスメントの意義と役割／QOLのアセスメント／痛みの測定／原因帰属のアセスメント／健康観のアセスメント／健康状態の指標／自己効力感尺度／ソーシャルスキルのアセスメント／不安のアセスメント／抑うつのアセスメント／怒りのアセスメント／職場ストレスのアセスメント／神経生理学的・神経心理学的アセスメント／精神生理学的アセスメント／ストレスコーピング尺度／ストレスの測定／ソーシャルサポートのアセスメント／バーンアウト尺度／生活習慣のアセスメント／リスク行動のアセスメント／パーソナリティのアセスメント／依存症のアセスメント／知能のアセスメント
コラム インターネット依存のアセスメント

第7章 適応(病気・問題行動)
【編集担当：岸 太一・鈴木伸一】
 受療行動／アドヒアランス／ICDとDSM／心疾患／がん／生活習慣病／喫煙の害(禁煙)／疼痛／人工透析／歯の健康／周産期医療／小児疾患とその対応／神経・筋疾患／安楽死・尊厳死／高次脳機能障害とリハビリテーション／認知症／心身症／過敏性腸症候群／摂食障害と食行動異常／不安症／睡眠障害／重篤な精神疾患への対応／精神科リハビリテーション／うつ病と自殺予防／適応障害／嗜癖・依存1／嗜癖・依存2／職場のメンタルヘルス /パー

刊行にあたって(一部抜粋)

日本健康心理学会は、1987年に創設され2017年には30周年を迎えました。学会設立当初から、人々の健康増進と疾病予防に関する心理学的研究の推進を掲げ、多くの既存の学問領域を横断する形で、「健康心理学」という学問の体系化を試み、現在は主要な心理学の分野のひとつとして位置づけられるようになりました。(中略)

学会設立30周年企画として、各領域の専門的な観点から、保健と健康の心理学の標準テキストをこれまでに6冊刊行しました。(中略)このたび、これらの標準テキストと相補的な位置づけの学会刊行物として、学会編の『健康心理学事典』を発刊することになりました。

この『健康心理学事典』の企画、編集にあたっては、とりわけ各章の構成、見出し項目の選定には相応の注意を払いました。それは、これまでの学会企画・編としての出版物をすべて精査し、主要なタームであると考えられるものは、その内容を最新の情報にアップデートしながら、事典の見出しや本文の中で必ず言及するようにしたことです。さらに、近年の健康心理学の研究、実践領域の拡大に伴い、これまでには十分に取り上げられてこなかった領域やタームも新たに採り入れることを試みました。こうすることによって、健康心理学の伝統的な基礎を体系的に網羅することができると同時に、近年の健康心理学を取り巻く変化などにも十分に対応できることが可能になると考えた次第です。

これによって、結果的に『健康心理学事典』は、全13章からなる構成となりました。それらは、「健康心理学の基礎」「生理学的メカニズム」といった基礎的テーマに関する章に始まり、「パーソナリティ」「ストレス」「健康教育・ヘルスプロモーション」「アセスメント」といった健康心理学の伝統的なテーマに関する章、「適応(病気・問題行動)」「対人・集団・社会」「ヘルスケアシステム」といった健康心理学のさらなる理解のために必須となるテーマに関する章、「カウンセリング」「健康心理学的支援法・災害後支援」といった健康心理学の実践的テーマに関する章、そして、近年あらためて着目されている「性・ジェンダー」「研究法・倫理」に関するテーマを独立した章として取り上げました。そして、それぞれの章には、『健康心理学事典』の前述の特徴を担保すべく、当該の領域に精通している2名ずつの気鋭の先生方に執筆者の選出や編集を依頼したため、非常に充実した包括的な内容に仕上がりました。

『健康心理学事典』は、初学者はもとより、健康心理学やその周辺領域の研究者や実践者にも活用していただけるような内容を意図しております。そのため1項目を見開きページでわかりやすく解説するという中項目主義の特性を活かして、インターネット情報などとも差別化ができる使い勝手のよい事典の編集を目指しました。ぜひ、健康心理学を学ぶ皆様の傍らに置いていただき、健康心理学に関する学びを深めていただくと同時に、内容の最新の情報にもアクセスを試みることによって、さらなる理解を深める一助にいただければ幸いです。

2019年(平成31年)4月30日 平成最後の日に

一般社団法人 日本健康心理学会
健康心理学事典編集委員会委員長

嶋田 洋徳

